

3月5日の滋賀県原子力防災専門会議を踏まえた緊急要請書

要 請 事 項

1. 関西電力が乾式貯蔵施設の設置申請を、原子力規制委員会に行う前に、
関電に対し、設置に反対であるとの意見を表明し、申請の中止を求めること。

滋賀県知事 三日月大造 様

私たちは、3月5日の滋賀県原子力防災専門会議を傍聴しました。そこでは、関西電力が設置の申請をしようとしている原発敷地内の乾式貯蔵施設について、委員等よりさまざまな質問や意見が出されました。関電の回答は、以下のように、問題点を浮き彫りにするものでした。

◆搬出先とする中間貯蔵施設については、どこにいつから持っていくか未定

委員から「中間貯蔵施設も六ヶ所再処理工場も容易に進んでいくと言い難い状況にある中で、このまま敷地内に長く留め置かれてしまうのではないかと疑問が出されました。これに対し関電は「60年間ずっと敷地内に置いておくというわけではない」と言いながら、「中間貯蔵施設はどこにいつまでにつくるか決まっていない」と回答しました。

これでは、使用済燃料が長期間原発敷地内に留め置かれてしまい、立地の町が核のゴミ捨て場となってしまいます。

◆格納設備は耐震Cクラス（一般の建築基準なみ）。大きな地震では壊れると関電が認める

委員から格納設備の耐震性について問われました。関電は、格納設備は耐震Cクラスとし、大きな地震があれば壊れる可能性があるとして述べました。これに対し委員から「格納設備が壊れるというのは非常によくはない、それなりのものを本当はつくらなければならない、耐震Bクラスに上げる必要はないのか」と意見、疑問が出されました。関電は「Bクラスにあげるつもりはない」と答えるだけでした。

格納設備が壊れると、吸気口、排気口が塞がれ、自然冷却できなくなる等の危険があります。超長期にわたり安全を確保し続けなければならない使用済燃料に対し、最初から壊れることを前提とした設備をつくることは認められません。

◆キャスクは外観点検だけ。キャスクの蓋を開けて内部の劣化は確認できず

防災危機管理監から、キャスクの胴の部分等について「定期的に例えば10年間隔で点検することは考えていないのか」と質問が出されました。関電は「金属なのでサビ等が生じれば、補修する必要があるが、60年間一応劣化しないとされる材料を使うので、外観点検等で異常がなければ特段の処置は不要になる設計にする」と回答しました。

これは、キャスクの蓋を開けて点検ができないためで、内部が劣化していても分かりません。

関電との安全協定2条2項では、関電からの「計画の報告」に対して、関電に「意見を述べることができる。」と定められています。そのため、緊急に要請します。

2024年3月12日 避難計画を案ずる関西連絡会

(連絡先団体：グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/ 脱原発はりまアクション/
原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会)

この件の連絡先：避難計画を考える滋賀の会 080-5351-7569

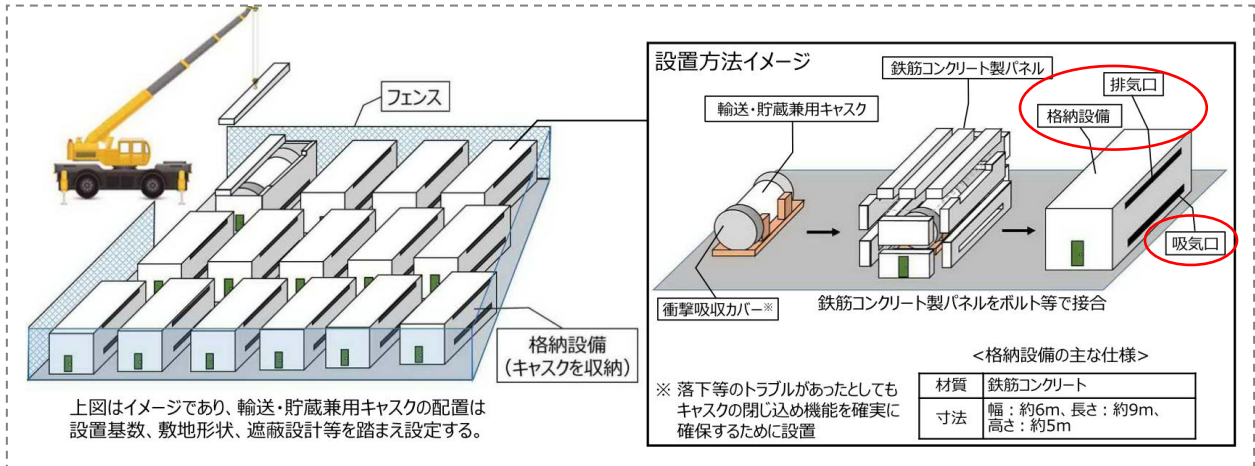
参考資料：3月5日滋賀県原子力防災専門会議の関電資料、会議のやり取り等より

◆「格納設備」の耐震性はCクラス（一般の建築基準並み）で大きな地震では壊れる

三澤毅委員の質問に、「格納設備」の耐震性はCクラスと関電が回答

三澤委員「大きな揺れでは壊れますね」➡ 関電「はい」

三澤委員「格納設備が壊れるというのは非常によくはない…耐震Bクラスに上げる必要はないのか」➡ 関電「Bクラスにあげるつもりはない」



◆地震に対する関電の評価は、吸気口、排気口が塞がれ、自然冷却できなくなる危険に言及せず関電の評価「キャスク同士はぶつからない」「パネルが落下しても大丈夫」

➡ 格納設備が壊れたり、地震や津波で地盤沈下や土砂災害等が起これば、吸気口、排気口が塞がれ、自然冷却できなくなる危険がある。

自然現象等	評価の概要
地震	<p>・キャスク同士が衝突しても、キャスクの前には貯蔵用衝撃吸収カバーが設置されており、キャスクの健全性は確保される。なお、キャスク間離隔距離、格納設備があるため、キャスク同士が直接衝突することはない。</p> <p>・格納設備が損傷し、落下した時の衝撃は、キャスク健全性が確認されているキャスクの取扱い時の落下評価に包絡</p> <p>鉄筋コンクリート製のパネルが落下</p> <p>キャスクが地面に落下</p>

◆キャスクは外観点検だけ

キャスクの蓋を開けることはできないため、内部の劣化は確認できず（胴や蓋の材料は炭素鋼）県の防災危機管理監「（キャスクの胴の部分等について）定期的に例えば10年間隔で点検することは考えていないのか」

関電「金属なのでサビ等が生じれば、補修する必要があるが、60年間一応劣化しないとされる材料を使うので、外観点検等で異常がなければ特段の処置は不要になる設計にする」

